

【セミナー運営に関するご感想・ご意見】

運営についてのご意見等	運営チームの回答
○セミナーの内容に関する意見	
非常に公正な立場で、河川の治水、利水に関するダムの持つ意味を掘り下げていく意思が感じられて共感を感じています。自然と共生するという事の意味の一面を河川のダムの効用から掘り下げる事で「水の国ニッポン」の知恵を世界に発信できればよいかと感じられます。次回も楽しみにしています。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
賛成反対のガチの話が聴けて良かった。でも、これが開催実績づくりだけに終わって欲しくない。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
非常に関心のあることに、非常に良い、参考になる講演をしていただき、うれしく思っています。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
自分の住んでいる瀬戸と豊川は距離がありますが、同じ愛知県内での問題と捉え、今後もダムの経過を見守っていきたいと思います。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
設楽ダムに関心がありましたが、豊川全体についてほとんど知りませんでした。疑問が増えた感もありますが、問題点の整理ができた思いがします。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
難しすぎて、あまり理解出来ませんでした。	より分かりやすい講座運営を検討いたします。
○セミナーの司会に関する意見	
出席者の方々の事を考えていただき、なかなか楽しく有意義でした。ありがとうございました。師弟コンビでばっちりでした。原田さんのファンになりました。	ありがとうございます。講師の先生にも参加者のみなさんにも意義深い時間を過ごしていただきたいと思っています。課題は重く、すぐに解決できることではありませんが、でも少しでも良い方向へ進むきっかけになることを望みながら、司会をさせていただきます。(原田)
お疲れさまでした。進行の原田さんのソフトな司会で、穏やかな会になりました。	ありがとうございます。穏やかに良い方向に進むこと望んでいます。(原田)
原田さん、ご苦労様でした。双方の話をよく伺うことができました。	ありがとうございます。どなたも悪い方はみえないと、私は信じていますので、優しい気持ちでの話し合いは大切ですね。(原田)
原田さんのダムの素人知識の司会は、大変私に分かりやすく、勉強になりました。2人の先生方のお話のやりとりも楽しく聞くことができました。今後も引き続き県民のためにこのような機会をつくって下さい。	ありがとうございます。誰にでも伝わるようにを心がけ、一般の方々の目線で司会をしたいと思っています。(原田)
素晴らしい進行でした。特に原田委員のソフトで機転のきく取り回しに。	ありがとうございます。難しい内容なので、勉強中の私には、分からないことも多々あり、上手く機転を利かせられないときもありますが、もっとしっかり学んで公正な機転を利かせられますよう、がんばります。(原田)
原田さとみさんの司会、とてもよかったです。次回も是非お願いしたいです。	ありがとうございます。次回も頑張ります。(原田)
司会の脱線が多いので、もう少しスムーズな進行をお願いします。	以後気をつけます。(原田)
意味が分からない人がコーディネーターを実施することは今後避けるべきだと思います。	すみません、勉強中です。(原田)
○セミナーの開催・広報に関する意見	
本セミナーを何故、名古屋市内で開催する必要があるのですか。流域関係住民の方々の意見を聴くことは重要だと思いますが、関係のない人たちの理解を深めようとしてどうするのですか。「反対の声が多い」との結論を知事は出したいのですか。	設楽ダムを、県民全体でお考えいただく県民セミナーとして企画しております。このため、名古屋地域の県民の参加が得やすい名古屋での開催も考えております。またセミナーのテーマによって、豊橋・名古屋以外の開催場所も検討してまいります。
是非、新城、設楽町で同じ内容で実施して欲しい。	
とても分かりやすいセミナーなので、もっと多くの県民が参加できるように情報周知を工夫して欲しい。	
参加者に若い人が少ない。もっと若い人も参加するような仕掛けが必要ではないか。よく知っている人ばかりが集まるのではなく、子育てをしている年代の人や大学生なども参加するようにした方がよい。みんなで考えていくことが大切である。	(広報に関して)
・聴講者の年齢層が高い。30代以下の聴講者を増やす努力が必要と思われる。 ・専門用語が多く、「理解」にはつながりにくいと思われる。 ・HPでダウンロードした資料を見て参加したくなるのか？次回から個別内容に入られるのでHPを改めてはどうか。	情報周知の工夫に関しては、第3回からチラシを新しいデザインで制作しまして、専門用語ばかりでなく、わかりやすい表現にし、広くたくさんの方々の関心を持っていただけるよう努めています。とくに若い世代の方々にも広がるように広報したいと思っています。(原田)
流域の多くの人に知ってもらいたい。多くの人に知ってもらえばダム問題はすぐ解決すると思います。豊川の大切さを多くの人が知るべきであり、何か多くの人に知ってもらう方法はないものでしょうか。	多くの県民が参加できるように情報周知に努めます。
2回参加したが、関係者(推進派、反対派)の人たちばかりで、一般の人はほとんどみかけられないのではないかと。本当に理解が不明であり、何のために実施するのか疑問を感じる。	
○セミナーの運営に関する意見	

質問した事項の回答がなく、場内の質問を優先するのはおかしい。発言者は無くても良い。まずは会場に足を運んだ者の公平な取り扱いを優先すべき。会場の人が仕切るのは異常である。	
最後のディスカッションは、演説の場となってしまうだけであり、不要と思います。	
・意見シートが多数あり、十分議論が深まらないのに、会場から意見を求めるのはおかしい。(何のための意見シートか。) ・総合司会は交通整理係に徹するべきであり、個人的な意見を述べるべきではない。 ・講師の方は、手短かに意見をまとめて発言して欲しい。(十分な質疑の時間をとるべきである。)	会場からの質問は、講演会のテーマに沿った内容を、質問シート提出者を優先して、コーディネーターが指名するようにします。また、セミナーのテーマによって参加者の意見がより活発になる進行方法も随時検討してまいります。
会場からの意見は反対者だけで、こうした運営が続くことは公平ではない。	
講師の選定は大丈夫ですか？ このセミナーは何を言ってもいいのですか？ 今回は変ですね。	
セミナー？意見を言う会？	
質問に対して当局者はきちんと回答をして欲しい。	講師が回答できる質問については、出来るだけ回答いただくように依頼します。
事業者側の発言は、事業推進の差し障りのある問題には明確さを欠くので、まじめな討論ができない。講師の選定上、やむを得ないのかと思うが、議論にはきちんと参加すべきと思う。	事業者側の意見も公平に聞いていきます。
反対の立場で話をするのはどうのこうのではないが、職員等の批判をするのはいかがなものかと思う。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
ダム反対の意見に偏っている会だと思うが、これで良いのか。	ダム反対の意見を持つ人の発言が強調されてしまいましたが、セミナーの講演および質疑は公平に行っています。これからも公平性を保っていきます。
論争の争点(セミナー)が不明確であった。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
○今後のセミナーへの要望	
まだ総論段階なので、問題の掘り下げになっていない。これから各論になると期待します。	
サイドイベントが海の幸ばかりでなく、豊川用水が送られている渥美半島の産品も紹介すべき。また三河湾の工業のこともやるべきではないか。何故、海の一次産業ばかりを紹介するのか。バランスが悪くないか。アユ等の川、流域の農業など、公平にバランス良く県民に紹介することが原田委員の責務ではないか。	(サイドイベントに関して) 第3回は三河湾がテーマでしたので、海の幸を中心としましたが、その際にも「お米・みそ・みりん」などの田畑の産品も試食品の中に使われていて、ちらしでもご紹介しています。そもそもこのサイドイベントでの試食は、市民団体のご好意でボランティアで行っていただいております。もし山の幸をご提供してくださるという方々がおみえでしたらぜひご参加いただきたいと思います。お願いいたします。(原田)
第3回は設楽ダムと三河湾の環境・生態系・漁業とのことですが、愛知県漁連の皆様が有識者に行った設楽ダムの三河湾への影響アンケート結果も是非活かしていただきたいです。また、県漁連の皆様は影響をちゃんと調査して欲しいと国に要望されています。愛知県漁連の皆様にも発言、参加していただくようにしていただきたいです。	今回のセミナーで課題となった点については、今後のセミナーで取り上げる予定です。
設楽ダムの流水の正常な機能を維持するための容量は6,000万トンで有効容量9,200万トンの65%を占めています。これの根拠となっている正常流量の利水上制限流量を含めて、「流水の正常な機能の維持」について、一回はセミナーを開催して欲しい。	
「税」の会では京都大学の藤井聡さんと呼んで欲しい。「救国のレジリエンス」等の著書あり。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
机を用意して欲しい。申込時に記入できるところは済ませて、質問と意見のみ当日に書くようにして欲しい。 介護中、育児中でも参加できるように配慮して欲しい。	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
水を制する者は社会を制すると云われます。良くも悪くも、人類、地域発展の為、豊川の在り方、制し方を周知していただきたい。 (設楽町は既に124世帯の水没移転が始まっています。ダム建設を容認した際の設楽町からの条件は約束どおり実施してもらいたい。)	今後の講座運営の参考とさせていただきます。
第1回の意見の中に、どうい論文を比較して講師を選定したのかという質問について、第6回運営チーム会議議事録のp25の原田委員の回答では答えになっていない。論文を読んだのかYes/Noで答えて欲しい。彼女はタレント以外にも「名古屋コップ水基金」など川や水に関する活動を行っているから今回の委員だと思われる。その方が、何も論文も読まずに今本教授を推薦するのはおかしい。長良川河口堰の県の委員で付き合いのある蔵治氏、小島氏の言いなりになっているのではないか。	すみませんでした。答えは、YESです。論文やインタビュー記事など読ませていただき決めさせていただきました。結果的にセミナーでは、今本先生には、講演とディスカッションで国交省の久保さんとともに良い議論をしていただきましたので、良かったかと思っております。アンケートでもそのような意見も多く、今回はこれで良かったかと思っております。ですが、私の説明不足でしたこと、お断り申し上げます。今後気をつけます。(原田)